

五輪から見る政治問題



一年五組 鴨下 友哉

経緯

総合の授業で、オリンピックについての新聞を作るということになった。自分は、政治ネタといっ

一九三六年ベルリンオリンピック

日獨伊三國間條約締結前の一九三六年にベルリンでオリンピックが開かれた。
しかしこのオリンピックの裏ではナチスドイツによるユダヤ人迫害が行われていた。ヒトラーはオリンピックの前後だけ人種差別政策を緩めた。例えばドイツ国内のユダヤ人差別系揭示物の撤去やヒトラー自身の差別発言を抑える、といったことだ。それによってアメリカやイギリスなどはボイコットを撤回した。

また、出場国にも政治問題が含まれている。独立国(その国自身のオリンピック委員会を持っている)だけでなく、三つの植民地も参加していたのだ。植民地に参加権限がない訳ではないが植民地支配した国を一国参加させようとせずイギリスとして参加させても良いのではないかと考えられる。植民地のうち参加した国はイギリス領インド帝国、アメリカ領フィリピン、イギリス領バミューダの三国だ。

また、このオリンピックを最後に二四年間、オリンピックが開かれることはなかった。

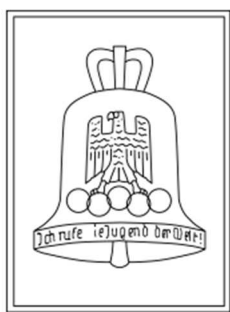
一九四〇年(一九六四年)東京オリンピック

かの有名な嘉納治五郎の懸命な交渉により大日本帝国東京府東京市(現東京都23区)は第二回オリンピック競技大会の開催地となった。

しかしそんな嬉しいことは戦争により実現することはなかった。色々頑張ったものの、支那事変(日中戦争)などの影響により大日本帝国政府が開催権を返上したことにより亡きものとなった。

誘致合戦の白熱などが起こったものの、嘉納治五郎が病死してしまい、必要な鉄鋼は逼迫し、政府は政府で軍部からの圧力により近衛文麿内閣も戦争遂行以外の目的の資材使用禁止に決定してしまったため開催権の返上は確実となりその後返上された。

なお返上のその日までに東京市が使った費用は九十万円で(2017年8月現在の価値で約二三億四千万円)であった。



一九六八年メキシコシティオリンピック

一九六八年にメキシコ合衆国で行われた第十九回大会である。

まず、開催目前の十月二日に大規模な学生デモが行われ、政府が治安警察や軍を導入して互いに多数の死傷者を出しながら鎮圧された。そんなことがあったが予定通り開催された。

また、当時絶賛分離中の東西ドイツは同一チームを結成せずそれぞれのチームで行われたが、国旗は東西分離前のを両チームとも使用していた。

また、IOC総会にて当時黒人差別政策を行っていた南アフリカの参加決議が行われたがアフリカ諸国とそれに同調したソ連含む共産圏合わせて五五カ国がボイコットを表明したため結局南アフリカの参加否決とすることで解決した。

そして、陸上競技男子200mの表彰式上、アメリカの黒人選手トミー・スミス(金)とジョン・カロス(銅)がブラックパワーの象徴である黒手袋を掲げた(ブラックパワー・サリュート)。IOCは両者に対し、永久追放処分を下した。

二〇二〇年東京オリンピック

新型コロナウイルス感染症により延期された三回目の東京オリンピック。

ここにも政治問題が発生している。

例えばSDGsがあるにも関わらず東亜諸国の国の木を大量伐採したり選手村用建造物の引き渡し関連などである

朝鮮民主主義人民共和国問題

現在国際社会から孤立している分断国家、北朝鮮は夏季冬季合わせて二〇回参加したが残りの八回は不参加となっている。不参加の理由として選手をコロナから守るためや呼称問題(北朝鮮と呼ぶか朝鮮民主主義人民共和国と呼ぶか、国際社会からの孤立などが挙げられる。メダル総数は五六個であり、金メダルが一六枚銀メダルが一七枚、銅メダルが二三枚となっている。

まとめ

選手だけでなく色々な人が関わるオリンピックという競技大会では様々な問題・政治問題があり、どれも無視できないものである。
タブレットを使用した初めての新聞作成であるが、使用感があまり良くないことを除けば良く作れたと思う。

オリンピック憲章第五章 三番にもあるように

オリンピックには政治や宣伝を絶対に持ち込ん